

2026/01/12

非核の政府を求める会 2026年新春シンポジウム

# 核なき世界を求めて

被爆者医療の継承と  
若造フォーラムの実践

長野反核医療者の会  
河野絵理子



Schirako



# 経歴

1996年：長野県出身

2020年：信州大学医学部卒業

→総合診療医を目指して研修

2025年：川口診療所（医療生協さいたま）



# 経歴

医学生 反核医師の会に参加

2022年：長野反核医療者の会 結成

2023年：核兵器禁止条約 第二回締約国会議





# 反核医師の会

核戦争に反対する医師の会

Physicians  
Against  
Nuclear  
War

広島で、長崎で私たちの先輩医師たちは原爆で傷ついた人を助けようと懸命の努力をしました。  
しかし放射能障害を前に医学は無力でした。  
そのことは、今も変わりません。そして今後も・・・  
治す事ができないのなら、私たち医師の勤めは予防する事。  
住民の生命を守るため、医師として「核兵器」を廃絶させなければと、全国各地に「反核医師の会」が出来ました。  
私たち「核戦争に反対する医師の会」はその集まりです。



## 放射能の前で医学は無力、予防医学としての核廃絶

- 被爆者認定
- 外務省要請
- 「核」発電所問題
- 被爆者認定書の記載、認定裁判
- TPNW参加、非核三原則の堅持
- 福島原発の原発被害者に寄り添う
- etc・・・

A

## Action

若手医療者たちが核廃絶の担い手として成長できるよう、様々な行動を起こしています。

B

## Bridge

若手医療者で集うだけでなく、地域や世代、世界の架け橋になりたいと考えています。

C

## healthCare workers

医師のみでなく、様々な職種の医療・介護従事者が対等な立場で活動しています。





反核平和運動・  
被爆者支援・  
被爆医療の歴史を  
学び継承しよう

主催：第35回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい実行委員会／核戦争に反対する医師の会

# 反核医師のつどいプレ企画 第1回

## 被爆者医療・支援の継承

2025/05/08

19:00～21:00



形式：zoom（オンライン）

※左記のQRコード、または下記のURL  
から登録してください

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/jf1dnXbiRKM4c4vmcUZmLA>

主催：ABC for Peace(いっぽプロジェクト)



講師：間間元さん（医師）

広島・長崎、ビキニ事件、セミパラチンスク、そして福島など被爆（ばく）被害の当事者とともにやってきた救済を求めるたたかいや核廃絶の運動、ご自身の経験などをお話いただけます。

# 反核医師のつどい プレ企画 第2回

## 被爆者医療・支援の継承

2025/6/2

19:00～21:00

形式：zoom（オンライン）



講師：三宅文枝さん

# 反核医師のつどい プレ企画 第3回

## 被爆者医療・支援の継承

講師：青木克明さん（医師）



核兵器廃絶をめざす広島会の  
反核医師の会 常任世話人  
広島共立病院で被爆患者さんの診  
療に携わり、患者さんとともに在  
外被爆者支援や「ノーモア・ヒバ  
クシャ訴訟」、「黒い雨訴訟」  
などに尽力されてきた経験をお話  
ししていただけます。



# 三宅文枝さん



- 広島原爆被害者相談員の会 代表
- 1975年、広島原爆被害者問題ケースワーカー研究会  
被爆者の「いのち、暮らし、こころ」に焦点  
自分史、訴え、生活に焦点を当てる
- 原爆被爆者対策基本問題懇談会（基本懇）  
「もう少しできっと被爆者援護法ができるから」  
「被爆者に合わせる顔がない」  
初めて自分の問題、自分ごとになった  
被爆者援護・核廃絶を目指す運動体としての活動に  
被爆者問題に関わる原点、本当の出発点



# 三宅文枝さん

- 被爆者の声がかき消されて、わかりやすい「核廃絶運動」に置き換わってはいけない。
- 被爆者の生活史を基本に。本当の被爆者の実態を伝えないといけない。声を伝えるのが相談員の会の役割。
- 社会福祉は、相談を通して社会を変えるという仕事
- 被爆者を支えてきたのではなく、「一緒にここまでやってきた」
- 核廃絶運動を二人三脚で行っていく

# 「被爆者医療の継承」とは

- 核廃絶を自分ごととしていく
  - 被爆者運動は被爆者だけのものではない
  - 受任論は現在にも未来にも関わる問題
- 「被爆の実相」を継承する
  - その瞬間だけでなく、その後の病気や障害、生活の困難を語り伝える
  - 医療者だからこその視点で
- 当事者と二人三脚
  - 当事者の求めることと真摯に向き合う
  - 一緒に社会を変える



# ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト

- 長野県内の被爆者の証言を文章と映像に残す
- 被爆のその瞬間だけでなく、その後どう生きてきたか、今の社会をどう思っているか
- 小中高校の教員が中心。授業の教材として





### 參加團體紹介

<p>通し展示</p> <p><b>本読みデモ企画</b></p> <p>イスラエル・パレスチナに関する本を囲みながら、「知る・考える・意見を交わす」場を共有しています。パレスチナ情勢を解説する(しろうと文庫)の展示もあります。</p>	<p>1-3教室</p> <p><b>松本市戦時中写真カラー化プロジェクト</b></p> <p>地域の戦争の記憶を未来へ。松本黒ヶ丘高校の学生が白黒写真をカラー化し、身近に感じる方法を探っています。</p>
<p><b>ワークショップ</b></p> <p><b>沖縄と私たち</b> 14:30~</p> <p>沖縄の基地や貧困などの問題を「自分事」に。有志の学生たちが沖縄を身近に考える方法を模索しています。</p>	<p>1-4教室</p> <p><b>松本強制労働調査団</b> 15:30~</p> <p>戦時中に強制労働に従事した中国人や朝鮮人の証言、戦争遺跡をどのように残すか、若手で考えています。</p>
<p><b>報告会</b>(2団体合わせて14:30~と15:30~、2回同じ内容で報告します)</p>	<p>2-6教室</p>
<p><b>ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト</b></p> <p>県内の被爆者や被爆二世が戦後80年間抱えてきた思いや願いを聞き取り、映像・冊子にまとめて次世代にどうつなぐかを考えています。</p>	<p><b>中学校での平和教育</b></p> <p>下伊那郡の中学校で満蒙開拓に関する授業を企画した教員が、現代の平和教育に必要な視点を報告。歴史教育の今をお伝えします。</p>

問い合わせは参加団体の松本強制労働調査団 (matsumoto.chousadan@gmail.com) まで

- 沖縄と私たち（大学生）
- 本読みデモ企画  
イスラエル・パレスチナについて





- 松本市戦時中写真カラー化プロジェクト（高校生）
- 中学校での満蒙開拓に関する授業
- 松本強制労働調査団
- ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト





# 実行委員メンバーのふりかえり

- 新たな知識、気づき、視点
- 別のテーマとの共通点を認識
- ヘイトの多い社会の中で、支え合う繋がりを
- どんな立場の人も対等に話し合う安全な場所



# 第2回 若造フォーラム

- 「植民地主義」を  
共通のキーワードとして
- 自分たちの生活、  
足元から考える

信州の若者がつむぐ  
平和創造フォーラム

2026年 2月23日(月・祝)

松本市勤労者福祉センター  
大会議室

参加費  
無料

支配者はだれ？

第2回 若造フォーラム

足元から考える  
植民地主義

開場 9:30

発表 10:00~12:30

ダイアログ

14:00~16:00

ジェノサイド

人種差別  
差別

軍事研究  
経済的  
徴兵制

核植民地主義

核兵器

終わらない軍拡

強制労働

戦争遺跡

侵略戦争

入植  
同化  
政策

歴史修正主義

加害の歴史

植民地主義



# 地域の問題への瞬発力

- 2025年12月、信州大学が「安全保障技術研究推進制度」の応募解禁することが報道された
- 戦争の道につながる
- 研究者が加害者にされる
- 信州に生活する市民として声をあげたい
- 歴史や世界から学び気づく
- 市民の声の力を信じている





# 非核・平和のために



## ➤医療者として

- 「被爆者医療の継承」を模索し続ける
- 人権を守る視点、科学的な蓄積など専門性を活かす

## ➤地域に暮らす一市民として

- それぞれの専門性を交流し合う
- 幅広い人を巻き込んで世論に影響を与える活動に
- 地元から世界の問題に対して、柔軟に行動に移せるように